

暴言暴力の根絶に向けて

豊田 則成

びわこ成蹊スポーツ大学

JBAインテグリティ委員会W.G.

<https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20221018/2000067437.html>

暴言暴力の根絶

勇気を持って
議論し続けよう

「技術指導」よりも「心の支援」を

- 子どもはコーチを信頼している
- 子どもを保護し癒していく
- 子どもを深く理解する(心の伴走)
- 学び続け、議論し続ける

子どもものの未来に
責任を持つ！

暴言暴力の根絶を目指して

- 議論を風化させてはならない
- まず10年間は議論し続けよう
- 暴言暴力の根絶は必須課題
- 社会的な責任を帯びている

子どもは大人の
ミニ化でない！

子どもたちは**発展途上**にある

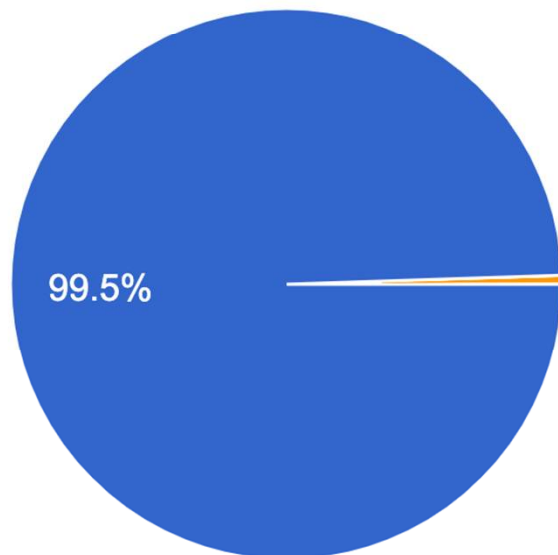
- 奥行き知覚・動体視力(未完成)
- 周辺視・図と地の分化(未完成)
- 聴覚記憶(コーチからの指示を把握する)
- 聴覚弁別(指示や声援と雑音の聴き分け)
- 相手を打ち負かすことよりも、自分のベストを尽くすことを重視する(不安と自信)

皆さんの実態です

2021年

【問3】指導場面における「暴力」について

196件の回答

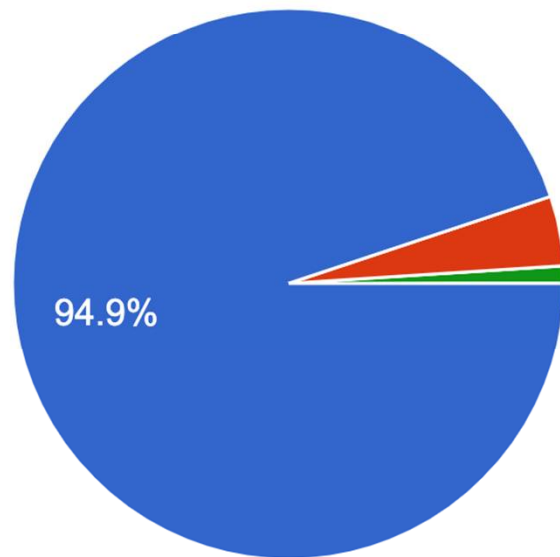


- 絶対にあってはならない
- 時と場合によっては、あってはならない
- どちらとも言えない
- 時と場合によっては、あってもよい
- 絶対にあってよい

2021年

【問1】指導場面における「暴言」について

196件の回答

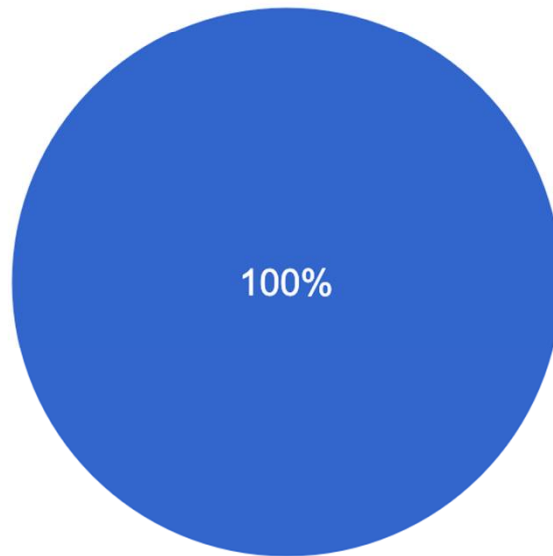


- 絶対にあってはならない
- 時と場合によっては、あってはならない
- どちらとも言えない
- 時と場合によっては、あってもよい
- 絶対にあってよい

2022年

【問3】指導場面における「暴力」について

73件の回答

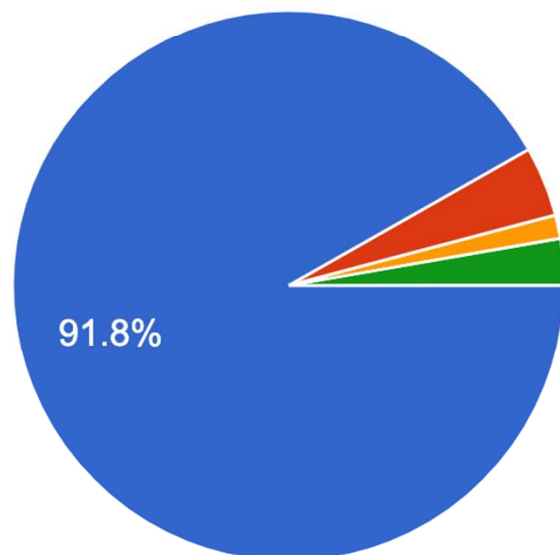


- 絶対にあってはならない
- 時と場合によっては、あってはならない
- どちらとも言えない
- 時と場合によっては、あってもよい
- 絶対にあってよい

2022年

【問1】指導場面における「暴言」について

73件の回答



- 絶対にあってはならない
- 時と場合によっては、あってはならない
- どちらとも言えない
- 時と場合によっては、あってもよい
- 絶対にあってもよい

暴力はイケナイ

暴言は？？？

コーチングは社会的な営み

試合会場ではなくなってきた
では、**普段の練習**はどうか？

何が起きていているのか

見える化して

継続的に議論する



Fig. 1 暴言暴力の悪循環

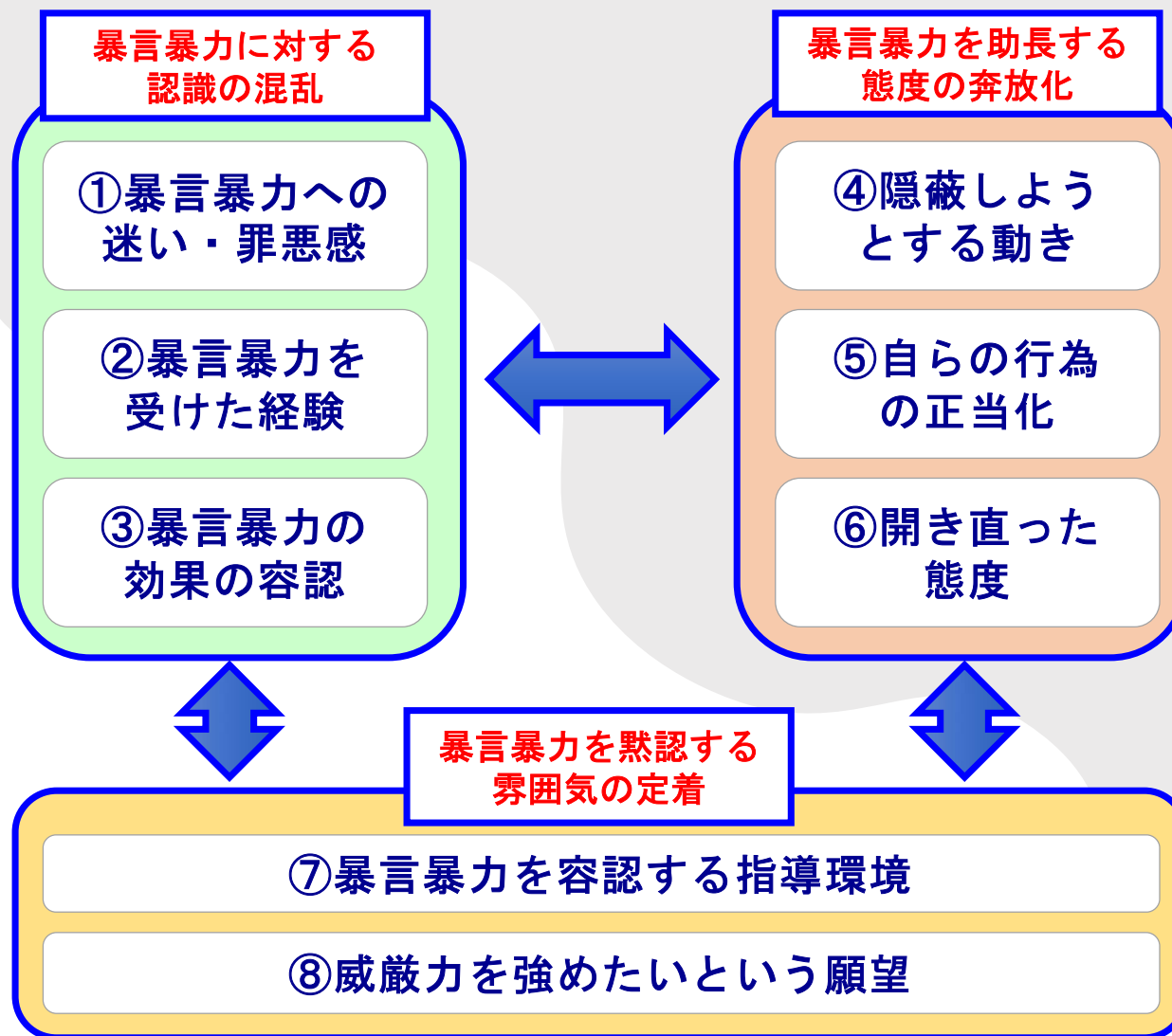


Fig. 2 暴言暴力を生み出していくメカニズム

子どもは困っている

保護者も困っている

コーチも困っている

コーチも苦しんでいる

- 何をどのように苦しんでいるのか、
見える化する必要がある
- その苦しみは他の人々を苦しめていることもあるかも
- 時には人を傷つけてしまうことも

悩みを共有し
互いに支え合う

信念を対立させる

体罰否定論 と 体罰肯定論 (教育における体罰の思想)

A. 体罰否定論 (体罰はイケナイ！)

- a. 体罰の**違法性**の観点
- b. 体罰の教育的**デメリット**の観点
 - 1) **過剰指導**としての体罰
 - 2) 暴力の**温床**としての体罰
 - 3) **信頼関係の損失**としての体罰

B. 体罰肯定論 (時には必要かも?)

- c. 体罰の教育的**メリット**の観点
 - 4) 精神の**鍛錬**としての体罰
 - 5) **信頼関係の醸成**としての体罰
 - 6) **しつけ**としての体罰

SWOT分析

**暴言暴力の根絶に向けて
見える化して議論する！**

暴言暴力のメリット

暴言暴力のデメリット

どのような「強み Strength」がありますか？

どのような「弱み Weakness」がありますか？

どのような「機会 Opportunity」がありますか？

どのような「脅威 Threat」がありますか？

暴言暴力の根絶に向けて
どのように取り組むべきか

暴言暴力による子どもへの悪影響

SWOT分析：U12指導場面における暴言暴力

**それぞれ1分間で
プレゼンします！**

チームの統制が取れ、子どもの動きが機敏になる

精神力の鍛錬・強化につながり、忍耐力が身につく

指導側はスッキリした気持ちになり満足する

子どもを支配し、指示通りに動かせるようになる

やりたくないことでも強制的にやらせることができる

子どもに舐められなくなり、威厳を保てる

常にビクビクしながら恐れるようになる

自分の考えが言えなくなり、指示待ちになる

顔を伺って自発的・主体的に動かなくなる

人を信頼できなくなり、信頼しようとしなくなる

自信がなくなり、萎縮してしてしまう

自責の念が芽生え、無気力になってしまう

どのような「強み Strength」がありますか？

どのような「弱み Weakness」がありますか？

どのような「機会 Opportunity」がありますか？

どのような「脅威 Threat」がありますか？

暴言暴力を罰する法律を作り、規制する

他の誰かに相談できるようにしておく

暴言暴力の根絶に向けた研修をする

防犯カメラを設置し、常に監視する

関係者が協力して解決策を練る

最新のコーチングや心理学、社会学などを学ぶ

精神的疾患になり、時には死に至ることも

暴言暴力を肯定するようになり、継承してしまう

スポーツが楽しくなくなる

トラウマやフラッシュバックに苦しみ続ける

他者に対する恐怖が芽生え、人を信用しなくなる

怯えて思い切りの良いプレイができなくなる

SWOT分析：U12指導場面における暴言暴力

子どもものの未来に
責任を持つ！

日本は**注目**されている



HUMAN
RIGHTS
WATCH

「数えきれないほど叩かれて」

日本のスポーツにおける子どもの虐待

「数えきれないほど叩かれて」

日本のスポーツにおける子どもの虐待

何十年間も、日本の子どもたちは、トロフィーやメダルの獲得のためという名の下に暴力を振るわれ、暴言を浴びせられ続けてきた。日本のスポーツには、体罰の歴史がある。今回の新調査により、学校や地域からトップレベルまで、スポーツをする子どもたちが暴力や性虐待、暴言の被害に遭っており、生涯にわたる心的外傷を受けていることが明らかになった。

「『数えきれないほど叩かれて』：日本のスポーツにおける子どもの虐待」は、オリンピックやパラリンピアンを含む、800人以上（50人以上のインタビュー調査と、オンラインアンケート調査での757人の回答）について、子どものときのスポーツの体験を調査してまとめた。オンラインアンケート調査では、少なくとも50競技、45都道府県での経験についての回答があった。顔面を殴られたり、蹴られたり、バットや竹刀で殴られたり、水分補給を禁じられたり、首を絞められたり、ホイッスルやラケットでぶたれたり、性虐待や性的嫌がらせを受けたなどの訴えがあった。近年、日本で改革が行われているものの、このような虐待が「当たり前」のこととされ、選手がアクセスできる通報相談窓口や救済措置が整っておらず、日本の学校スポーツから競技団体傘下のスポーツやトップレベルのスポーツまでアカウンタビリティ（責任追及）が不十分であることを、本調査は明らかにした。これにより、加害者である指導者が、他の選手にも危害を加え続けている。

日本が2021年7月に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向けて準備を進めているいま、日本の現状に対する世界の関心は、スポーツをする何百万もの子どもたちを守るために日本国内の法制度そして世界の政策を変える、またとない機会となる。

毎日誰かしら殴られてたし、試合中とかも……。本当にどれだけ殴られたかかってくらい殴られた。私がキャプテンだったのもある。……。髪の毛引っ張られたり、蹴られたりもした。……。(顔)が殴られすぎて青くなって。……。血が出たことも。……。でもその先生のこと、(今も)好きだし……。(当時)私のことプレイヤーとして信頼してくれてるなという感じもすごくしてたし、私の助けになろうともしてくれていた。……。みんな嫌いじゃなかった(でも)みんな、本当に先生のこと怖くて。……。 (酷い指導者に関して言う) DV 被害者の心理と似ていて、アメとムチではないけど、愛情と虐待の両方を感じてた⁵。

スポーツ指導場面における『虐待』

- Human Rights Watch(2020)や土井ら(2021)は、虐待の実態を明らかにし、法的規制を念頭において議論 → 「**相談窓口**」
- 人は誰でも「**暴力性**」を有しており、その有形行使として「**暴力**」が立ち現れる(松田,2019)。
- 根絶には程遠い → 根絶を目指した議論を風化させない → 「**継続して議論すること**」が必要
(内田, 2015; 南部, 2019; ミラー,2021, 上野, 2020)。

暴言暴力 = 虐待

子どもたちの発達に不利益なかわりにはごく身近なところにある

児童虐待防止法(略称)

- 正式 児童虐待の防止等に関する法律
- 虐待(Abuse: アビューズ) 大人から子どもへの発達を阻害する行為全般
- ①身体的虐待(暴力・体罰)、②性的虐待、
③心理的虐待、④ネグレクト
- 保護者が対象(だからこそ厄介！)

そもそも「虐待」ってなんだ？

- 日常的な拒否・愛情の剥奪
- 関心を向けられないこと
- 大人の過度の期待
- 子どもの将来を思っでの強い高圧的な指導
- 「これは虐待と言えるのか」という線引きの
難しさ

指導 ≠ 支配

日常的に実践されている指導を振り返り、点検する必要がある

罰 ・ 脅し ・ 制裁

何も教えていない

議論を風化させない

何が起きていているのか

見える化して

継続的に議論する

マルチリポートメント

「違法ではないけども、不適切なかわり」

マル

(mal 悪い)

+

トリートメント

(treatment 扱い)

チャイルド・マルトリートメント

18歳未満の子どもに起こるあらゆる種類の
身体的・心理的・性的虐待とネグレクト、商業
的またはその他の搾取を行うこと、さらに責任、
信頼または権力の関係の文脈において、子ども
の心身の健康・発達・大人・対人関係などに
害をもたらすこと。（世界保健機関 WHO）

【見落とされがちな日常】

あるチームでは、強い圧力をかける指導が横行していました。

ベテランと呼ばれる年代の指導者が、子どもの行動を常に監視し、少しでも枠から外れるような行動をとると大声で怒鳴ったり、力づくで行動を制止したりすることを繰り返していました。

その指導は、チーム全体に浸透し、若い指導者たちも「こうすれば、子どもたちは言うことを聞く」といった間違った成功体験を積んできました。

子どもたちの表情に笑顔はなく、指導者に怒鳴られることで頻繁にパニックに陥る子どもや、毎回の練習会場へ「行き渋る」子どもが続出していました。ところが、指導者による苦しさを子どもたちはなかなか訴えることはできません。

「行き渋る」ことは「親の甘やかしだ」と保護者が責められることもあります。保護者にとってこのようなチームは我が子を人質にとられている「現場」であり、申し立てることができないまま、時間だけが過ぎていきました。

すると、子どもたちは、強い圧力をかけなければ動かなくなっていました。これでは、子どもたちは楽しくないばかりか、主体性・自主性すら育まれません。

指導者の影響力は大きい！

- 子どもにナメられないようにもっとしめた方がいい？（誤った経験値）
- 力で押さえないと子どもが甘える？
- 指導者の思い通りに子どもを動かす？
- 怯えている子は、一見、従順で、落ち着いているように見える？（勘違いの成功体験）

統率力 背後で何が起きているのか

- 指導者の一方的な語りが多く、子どもたちが発言できない空気が支配している？
- 多くの子どもたちが黙って高圧的な指導者に従っている？
- 強い叱責、懲罰、締め付けなどの指導
- 指導者の顔色を伺いながら子どもが動く

指導者の不適切なコトバ

心理的虐待になっていないか

「指導者の焦りによって適切でないかわりとなっていないか」

自身のコトバを振り返ってみる

- 威圧的・高圧的な指導
- 力で押さえつける指導
- 子どもが自信をなくすような強い叱責
- 子ども的人格を尊重しない言動
- 子どもの主体的な行動を妨げるような指導
- 威圧的な指導に頼った子どもの支配

指導者の不適切なコトバ（１）

□ 質問形式で問い詰める

「何回言われたら分かるの？」

「どうしてそういうことするの？」

「一体、何やってるの？」

「誰に向かって、そんな口のきき方をするんだ？」

指導者の不適切なコトバ（２）

□ **本当の意図を語らず、裏を読ませようとする**

「やる気がないなら、やらなくていい」

「もう勝手にすれば」

「好きにすればいいじゃん」

→ 「やりなさい」「勝手は許さない」

指導者の不適切なコトバ（3）

□ 脅して動かそうとする

「早くしないと〇〇させないよ」

「じゃあ〇〇できなくなるけどいいね」

「もうみんなと〇〇させられないな」

指導者の不適切なコトバ（４）

□ 虎の威を借る

「お母さんに言うよ」

「お父さんに聞いてこいよ」

「〇〇コーチに怒ってもらうからね」

指導者の不適切なコトバ（5）

□ 下級生と比較する

「そんなこと1年生もやりません」

「1年生からやり直しな」

「幼稚園に戻った方がいいね」

指導者の不適切なコトバ（6）

□ **指導者側に責任がないことを強調する**

「それ、ダメだって言ったよね」

「もうやらないはずだったよね」

「さっき約束したばかりだよ」

指導者の不適切なコトバ（7）

□ 見捨てる

「じゃあ、もういい」

「さようなら」

「バイバイ」

**指導者は 子どもの
「心の代弁者」になっているか**

指導者の不適切なオコナイ

ネグレクトになっていないか

「主体性・自立の促しをカサに指導を放棄していないか」

子どもを無視してはいないか

- 励ましや賞賛などをしない
- 特定の子の指名を避ける
- 支援が必要な子の合理的配慮を行わない
- 必要な指導準備を怠る
- 取り組むべき課題を放置する
- 支援が必要な子の指導を他者に丸投げしてしまう
- 見捨てる言葉「勝手にすれば」「さようなら」を吐く

指導者の不適切なオコナイ(1)

□ 高圧的な指導、大声で怒鳴る

大人の過度な期待に、子どもを無理矢理に応えさせようとしていないか。

指導成果が実現しない焦りから、高圧的な指導を強いて、子どもが指導者の顔色ばかりをうかがっていないか。威圧によって子どもコントロールしようとしていないか。

指導者の不適切なオコナイ(2)

□ **目を合わせない、笑いかけない**

練習に来て一度も指導者と言葉を交わさずに帰ってしまう子どもはいないか。

指導者は、限られた時間の中で「心の安全地帯」となっているか。目を合わせ、笑いかけることで、「見ているよ」「大丈夫だよ」という安心感を子どもに与えているか。

指導者の不適切なオコナイ(3)

□ 特定の子どもを放置する

一生懸命、指導者にアピールしてきているのに、その子を見捨てていないか。

子どもの「積極性や努力を正しく評価されていない」という気持ちは、心を焦らせ、指導者への不信感へ繋がる。練習の流れに合わないからといって、見捨ててはイケナイ。

指導者の不適切なオコナイ(4)

□ 活動に参加させない、一方的に練習から排除する

「上手くできないなら見ていなさい」と伝えるのは「指導の放棄」や「排除」を意味する。

苦手さを理解し、スモールステップでの取り組みを重要視し、自信を持って練習に参加するよう導くことが肝心である。

指導者の不適切なオコナイ(5)

□ 必要な賞賛をしない、成長を価値づけけない

「よく頑張ったね」と努力を認め、「できたね！よくやった！」と賞賛することはとても大切である。

子どもの成長に関心を抱く一方、励ましなどの適切な指導を放棄してはイケナイ。

指導者の不適切なオコナイ(6)

□ **必要な情報の提供や共有を怠る**

指導内容を他者と共有することを拒むことも「可能性の放棄」につながる。

「自分には自分のやり方がある」は諸刃の剣。確かに、それが功を奏することもあるが、コーチングは社会的な営みである以上、「独善的」「独裁的」であってはならない。

指導者の不適切なオコナイ(7)

□ 子どもの気持ちや心理的な危機に気づけていない

「本来怠ってはいけない危険の察知ができていない」ことも大きな問題である。

危険を放置すること、例えば、熱中症が危惧される中で水分補給を怠ったり、いじめを放置することも絶対にあってはならない。

**指導者は 子どもの
「心の伴走者」になっているか**

**虐待に類似した指導は、まだ
まだ見える化されていない**

アスリートセンターード

子ども理解の守備範囲を広げる

- 子どものちょっとしたミスが許せない
- 対応できないことを子どものせいにする



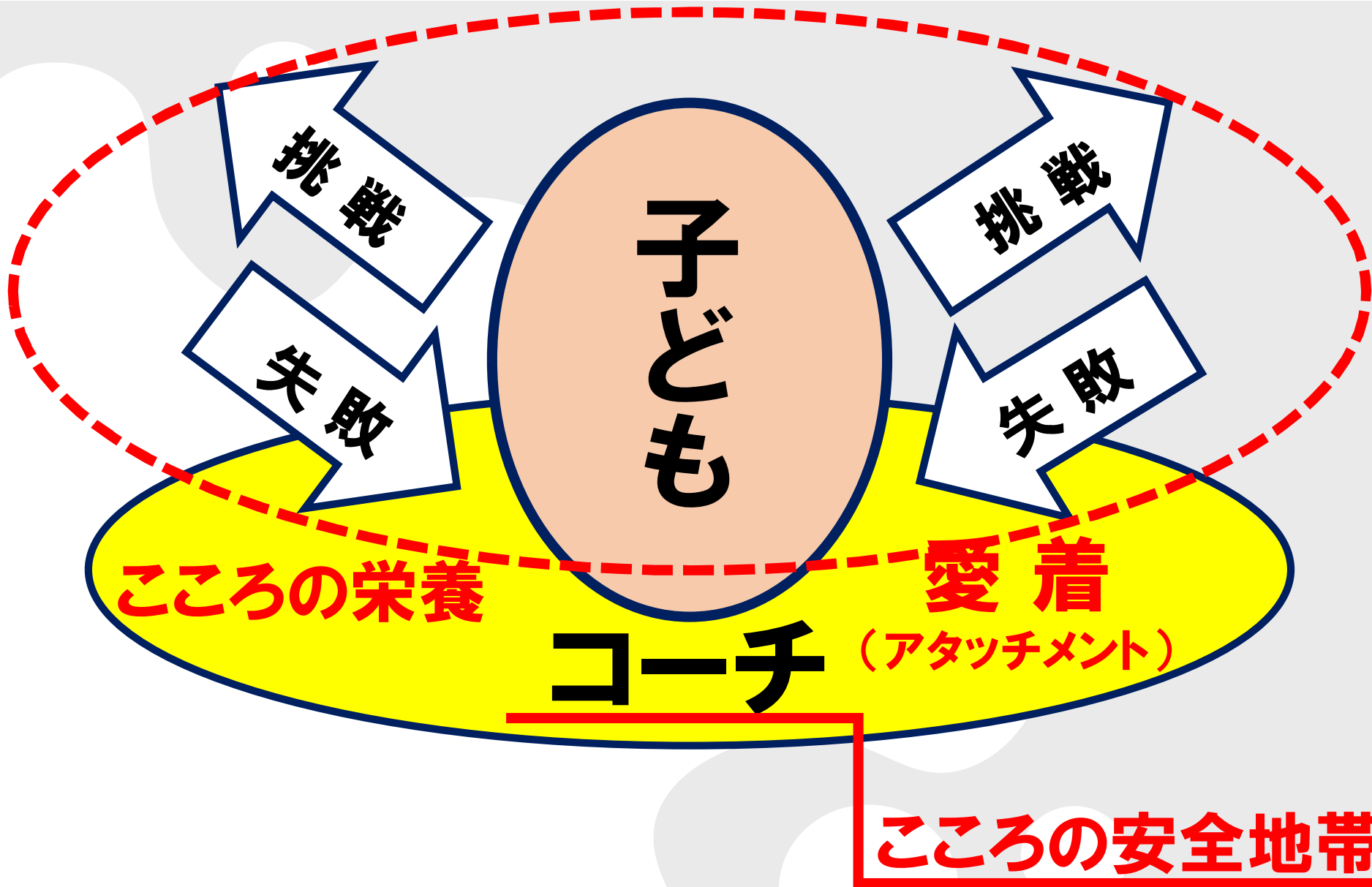
- 子どものちょっとした成長に気づこうとする
- 子どもの成長を何より嬉しく思う
- 子どもが対応できない時こそコーチの出番

アタッチメント コーチング

愛着(アタッチメント)に着目して

- ジョン・ボウルビィ(1951)
- 子どもは大人との親密な関係性の仕組みによってもたらされる**安心感に支えられて**外界の活動を安定させ円滑な「**かかわり**」を構築する。
- 「安全な避難所」「安全な基地」
→ 『**心の安全地帯**』
- 子どもにとって**指導者は「愛着」の対象**である。

主体的な探索



こころの栄養

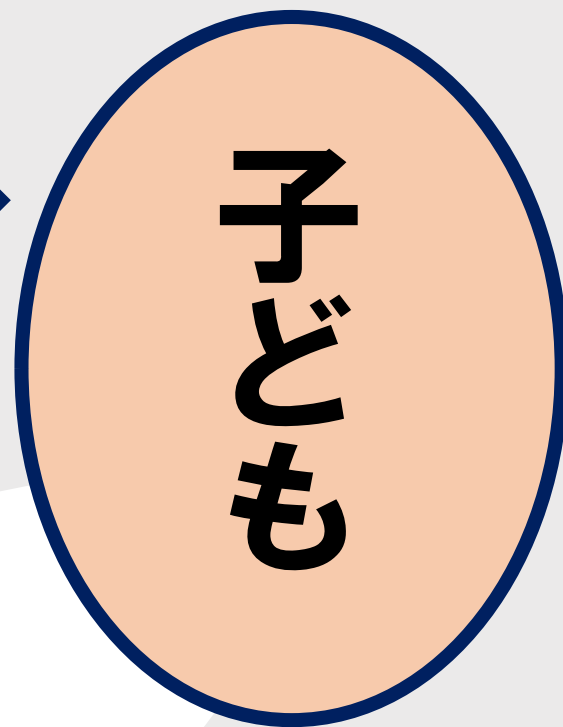
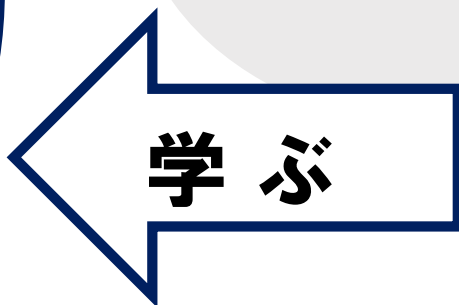
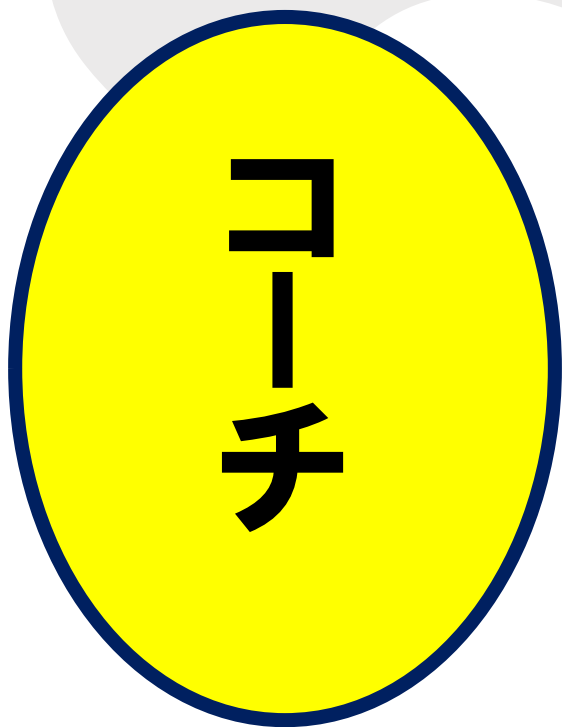
愛着

(アタッチメント)

コーチ

こころの安全地帯

子どもとの心の絆(キズナ)



健全な『絆』を深めていく

- 子どもを指導すると同時に、子供からも学ぶという姿勢を有する(相互性)
- 『やる気』を引き出す(動機づけ)
- 押付けるのではなく、子どもと一緒に
なって価値観・文化を作り上げていく

アタッチメントのつくり方

- 目を合わせる
- 笑いかける
- 語りかける
- 触れ合う
- 感謝を伝える
- 努力や過程を認める



自分のことを
気にかけてくれている



自分のことを
分かってくれている

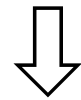


安心して
挑戦することができる

**学ばざる者
教えるべからず**

自己を振り返り、改善し続ける！

- 見直すべきは、自分自身だと理解する
- 頭で理解できたとしても、腑に落ちない
- 例え、腑に落ちたとしても、行動できない
- 行動できても、不器用でうまくいかない



- 常に自己反省に基づき、体質改善を目指す

勇気を持って
議論し続けよう

**アンケートに
ご協力ください！**

